

[12] 日向市小体連

I 年間事業

実施日	事業名	主な内容
5月12日(火)	第1回理事会	役員選出、年間計画
6月9日(火)	第2回理事会	本年度の研究の方向性確認、研究授業① 水泳大会計画案検討
7月2日(木)	第3回理事会	研究内容について、水泳大会計画案
7月23日(木)	水泳大会前日準備	水泳大会前日準備
7月24日(金)	水泳大会、第4回理事会	記録集計、水泳大会反省
8月21日(金)	第5回理事会	研究内容について
10月2日(金)	第6回理事会	陸上大会計画案、研究授業指導案検討について
10月29日(木)	陸上大会前日準備	陸上大会前日準備
10月30日(金)	陸上大会、第7回理事会	記録集計、陸上大会反省
11月9日(月)	第8回理事会	研究授業 研究協議
1月26日(火)	第9回理事会	研究内容のまとめ
2月16日(火)	第10回理事会	次年度の方向性について

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 大会名 第44回日向市小学校水泳大会
- (2) 実施日 平成27年7月24日(金)
- (3) 会場 財光寺南小学校、日知屋小学校、東郷学園
- (4) 出場者 日向市内各校5・6年生代表(622名)
- (5) 実施種目 自由形(25m、50m)、平泳ぎ(25m、50m)、リレー(25m×4名)
- (6) 競技方法
 - ・タイムレースとする。
 - ・出場は、リレーを除き、1人2種目とする。(専門種目+一般100m)
 - ・競技は、原則として学年別、男女別とする。
 - ・細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 8:45～ 競技 9:20～11:45 閉会式 11:45～12:00
- (8) 表彰
 - 各会場で測定した記録を集計し、上位3位までを入賞として表彰する。
 - 参加児童全てに記録証を渡す。
- (9) 反省

今年度も昨年同様、3校開催となった。熱中症対策を考慮し、競技の合間に児童をプールに入れるなどして、体調不良者もなく、無事終わることができた。東郷学園会場は坪谷と東郷の2校で開催した。大会という雰囲気までには至っていないという反省があがっているものの温かい雰囲気を考え、次年度もこのままの形で行う予定である。各会場、模範泳を行い、十分にスタートや泳法の確認ができて良かった。また、競技の途中で水慣れの時間をとるなど、児童の体調に注意して実施することができた。折り返しの場所にも教師が付き、リレーのスタートを細かく見る必要がある。役員数の不足もあるので、各学校の協力がさらに必要となってくる。

課題もあるが、来年度も水泳大会を開催することで日向市の高学年の親睦と泳力の向上を深めていきたい。

2 陸上大会

- (1) 大会名 第45回日向市小学校陸上大会
- (2) 期日 平成27年10月30日(金)
- (3) 会場 大王谷陸上競技場
- (4) 参加者 日向市内小学校6年生(小規模校のみ5年生も) 663名
- (5) 種目
 - 走り高跳び ○走り幅跳び ○ソフトボール投げ ○50mハードル走
 - 短距離走(100m) ○長距離走(男子1000m、女子800m)
 - 400mリレー(100m×4名)
- (6) 競技方法
 - ・選抜での出場はリレーを除き、1人1種目とする。どの児童も一般の短距離走に出場し、計2種目出場することとする。
 - ・「走」の競技は、スタンディングスタートとする。
 - ・靴は普段体育で使う運動靴とする。
 - ・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 9:30~ 競技 10:30~14:50 閉会式 15:00~
- (8) 表彰
 - 上位3位までを入賞として表彰する。
 - 参加児童全てに記録証を渡す。
- (9) 反省

陸上大会前日に、競技場近辺に去るが出没したので、各学校に注意喚起を指示した。当日は、あいにくの雨となりグランドコンディションだけでなく、気温の低さもあり、中止を余儀なくされた。今回は判断が難しく、当日の朝の判断となり、6年生児童はその日各学校で記録会をしたり、学年での対応を行ったりするなど、臨機応変の対応をすることとなった。次回は早い判断が求められる。

記録は各学校で測定後、集計を行った。走る距離や計測を丁寧に行うように注意は呼び掛けた。しかし、各学校の運動場の大きさもあり、100m走やリレーなど距離は同じでも条件の違いがあることが考えられる。男子400mリレーでは、14校中7校の実施となった。女子400mリレーでは、12校中6校の実施であった。各学校の実施では、記録をとる難しさがある。女子100m走では、全国で走ったことがある児童がいたが、大勢の前で走ることができなかったこととそれを見ることができなかったことが残念であった。その児童の学校で測定した記録は、13.6で大会記録となった。各学校での実施のなか、男女長距離、男女100m走、女子ハードル走、男子走り高跳び、女子ソフトボール投げ、男子400mリレーで1人(1校)ずつ標準記録突破者が出た。

大型のバス3台、中型のバス2台を押さえていたが、日向市のバスと東郷学園のバスの2台を借りるなど、バスの手配が難しかった。帰りつく予定の時間も16時を過ぎてしまうため、次年度に向けスムーズに進めて早く終わるように計画していく必要がある。

今年は各学校での記録会となり、実施する児童も物足りなさを感じていたようである。来年度は子ども達同士の交流をさらに深め、競技大会としての質も向上できるよう尽力していきたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題及び副題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるゴール型のゲームの在り方
～児童同士の「かかわり」を重視したタグラグビーの実践を通して～

2 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説体育編のゴール型ゲームでは、“フラッグフットボール”“タグラグビー”というニュースポーツが例示されている。日向市には、児童生徒向けの一般指導者によるラグビースクールがあったり、日向高校のラグビー部は県内でもトップクラスの成績を残したりするなど、ラグビーが盛んに行われている地域である。

タグラグビーは、ラグビーと共通する動きも多く、小学校の段階からタグラグビーを授業で取り組むことで、地域のスポーツ活動の活性化へと繋がっていくことも十分に考えられる。

しかしながら、本市小学校におけるタグラグビーは、多くの学校で指導する側の教師が、競技名を知っている程度で、競技に繋がる遊びやミニゲームなどの知識が乏しく、なかなか授業として取り組むことができていないという現状であった。

そこで本研究では、体育の学習におけるゴール型ゲームとしてタグラグビーをとりあげ、児童が主体的に運動に取り組めるための段階的・体系的な単元計画の工夫、「運動が楽しい」「友達と一緒に体を動かすことが気持ちいい」と児童が感じることができるような授業展開の工夫、タグラグビーの動きにつながる遊びやミニゲームなどの紹介も行うことを通し、日向市の教師の体育科授業の充実を図っていきたい。

3 研究の目標

ボール運動のゴール型ゲームであるタグラグビーの学習指導を通して、運動の楽しさを味わい、進んで運動に取り組もうとする児童の育成について究明する。

4 研究の仮説

ボール運動のゴール型ゲームであるタグラグビーの学習において、児童同士のかかわりを充実させるために指導方法の工夫・改善や、基本技能の段階的・系統的な単元計画、ゲームでの児童が主体的に関わり合うための工夫、活動内容を精選し運動量の確保を行う、などの手立てをとれば、児童が運動することの楽しさを実感することができる楽しい授業になるであろう。

5 研究内容

(1) タグラグビーの単元計画の作成

第5学年を中心として、動きや技の習得を段階的・系統的に配置した、タグラグビーの学習における単元計画の作成を行っていく。

(2) 児童同士が主体的にかかわり合うための1単位時間の学習の流れとワークシートの作成

ゲーム（試合形式）の段階において、児童が主体的にかかわり合うための1単位時間の学習の流れの工夫を考察・実践していく。またその際、教師が留意する場面、評価の視点なども検討するとともに、児童同士が作戦を話し合ったり、意見を交換したりするためのワークシートの工夫も行っていく。

6 研究の実際

(1) タグラグビーの単元計画の作成

タグラグビーを行う際に習得すべき動作は、大きく分けて「タグを取る」「パス（キャッチ）をする」の2つである。この2つの動作を指導計画の中で系統的に位置づけることにした。

そこで、第1時（オリエンテーションを含む）か第3時までを「タグを取る」ことを中心とした学習、第4時から第7時までを「パス（キャッチ）をする」ことを中心とした指導計画を作成した。

これは、まず児童がタグ取りの技能を身に付けることで、相手の進攻を止める方法を身に付けることになり、攻撃側の児童が「ただ走るだけではトライできない」ということに気付き、“パスを繋いで攻める必要がある”とグループでの作戦タイムなどで出てくると考えられる。そのため、「タグ取る」から「パス（キャッチ）をする」という学習内容の配置の工夫を行った。

(2) 児童同士が主体的にかかわり合うための1単位時間の学習の流れとワークシートの作成

児童同士が主体的にかかわり合うために大事なことは、①練習とゲームが関連してみんなで協力して活動できる、②楽しく活動できるための運動量の確保、③児童同士でよかった動きや改善点などの意見交換ができる、この3点であると考えた。

①の練習とゲームの関連性については、夏季休業中に宮崎県ラグビー協会小学委員会の徳原宏樹氏を招いて、協力しながら取り組めるタグラグビーに繋がる遊び・ミニゲームを学んだ。研究授業では、その中から本時のめあて（今回の研究授業はパスを中心とした学習）に繋がる練習を行った。

②の楽しく活動できるための運動量の確保に関しては、授業の展開の中で、“やさしいタグラグビーゲーム”として、ルールを簡易化したゲームを行うことで、児童の1単位時間内における運動量の確保を目指した。また、タグラグビーという児童にとってまだ経験が豊富ではないゲームであることを考え、ゲーム時間を1試合3分に設定して、多くのチームと対戦ができるように工夫し、タグラグビーの試合感覚をたくさん体感できるようにした。

③については、試合の合間に意見交換の時間を設け、見学のチームが、プレーしているチームの良いプレーや改善点（もっと良くなるために…）をカードに書き、見て気づいたことを他のチームに伝えるように設定した。チーム内だけでなく、クラス全体での児童同士の関わり合いが積極的に行われ、学級全体の技術力向上が図られた。さらに、学級内の温かい雰囲気づくりにも繋がった。

7 研究の成果と課題

- 指導計画の工夫（タグ取り→パス・キャッチ）や1単位時間の流れを工夫したことにより、児童が話し合いながら練習、ゲームに取り組む姿が見られた。
- 今回、第5学年を中心とした単元計画や指導過程を作成したが、低学年からのタグラグビーの系統的な学習の研究を今後行っていく必要がある。

5 指導計画及び評価計画（全8時間 本時5/8）

	学習内容	観点別評価項目		
		関・意・態	思考・判断	運動の技能
第1時	タグの取り方やボールの持ち方に慣れさせる。 ・タグの扱い方/パスの仕方	◎①		○⑦
第2時	ゲームのルールや進め方を知って、やさしいタグラグビーをする。	○①		◎⑦
第3時	タグを効果的に取ることでできる作戦を立てて、やさしいタグラグビーをする。	○②	◎⑤	
第4時	やさしいタグラグビーをして、自分のチームの課題を見つける。	○②	◎④	
第5時 本時	パスがつながるような作戦を立てて、やさしいタグラグビーをする。		◎⑥	○⑦
第6・7時	チームの特性に応じた自分たちらしい作戦を立てて、タグラグビーを楽しむ。	○③	◎⑤	
第8時	これまで学んだことを生かして、タグラグビーを楽しむ。	○③		◎⑧